

<2015年11月湘南レース・レポ>

11月8日（日）朝から弱い雨が続く嫌な天気。年間優勝を競っているバーバリアンとは2ポイント差をつけられている。今日はなんとしてもバーバリアンに勝って1ポイント差に詰め、最終12月のレースを迎えなくてはならない。

昨年11月のレースは我々だけがフィニッシュでき、他がすべてDNFと相性がいいレース。負けるわけにはいかないのだ！

コースは秋谷沖～南西ブイ・往復。今日のメンバーは

ヘルム・・・G

メイン・・・YO

ジブ・・・I

バウ・・・カトー の4人とちょっと寂しい。

いつも乗っているメンバーはHanamizuki (First40) のデビュー戦に乗っている。いつもより少ないが風太郎は今日ダブルハンドで参加とのこと。贅沢は言っていない。

スタート海面まで潮の影響がいつもより時間がかかり、スタート10分前に到着。急いでアウターマークをGPSに入力しセールをセットしていると「南西沖何度？」と聞かれ、5年も経つのに今だに使いこなせていないGPSと老眼と雨の雫を指でぬぐう度変わる液晶画面にすぐには答えられない。だいたい機能がいっぱいつき過ぎているのだ。いつもならYAさんがナビゲーションしてコースも引いてくれるのに・・・(ブツブツ)。スピンをセットしているうちにスタート。そのままスピニアップ。第1列ではないものの、慌ただし中まあまあのスタート。すぐ前にHanamizuki上にシャークXがいる。ライバルバーバリアンを探せば下から出たのか右後方にいる。ほぼ真ランの微風。ルミナスがいい走りをして抜いて行く。Hanamizukiはこの弱い風ではあきらかに艇が重そう。我々はスピード重視で上らせ気味に走る。といつもの所に定置網。どこでジャイブをするかがポイントになるが、先にジャイブをした艇は角度が悪そう。そこでギリギリまで突っ込みジャイブ。風弱く振れ回り行き足が伸びない。よき所でジャイブを返しバウを南西沖に向けた頃には後ろにZipangV (YAMAHA26SII) 1杯しかいない?!後ろにいたはずのバーバリアンは?ダブルハンドの風太郎は?定置をかわすジャイブ大失敗…トホホ。結局彼らは定

置を避けて上らせず、そのまま南西沖にコースを維持していたのだ。いきなりドベ2！いやいやまだレース序盤だ、コツコツ行こう！と、ブローが入る度「いいよいいよ！いい走りだ！」と声をかけ合いながら自分自身を奮い立たせる。

しばらく真面目に走っていると風太郎が見えてきて離れてはいるが横に並んだ。前方に見慣れないレース艇（初参加？）の Sea Moon（YAMAHA23）が見えてきた。真面目に走っていると追いつき抜いた。Sea Moon にはバーバリアンのメンバーが1人乗っていてスピントリムをしながら話かけてきた。どうやら遙か前方にいるのがバーバリアンとのこと。あれか！小指の先程にしか見えなくらい離されている。ではその後ろにいるのがルミナス？レーティング的にドベドベである。あとは南西沖までコツコツ差を詰め復路逆転するしかない。

城ヶ島を過ぎるとだんだんバーバリアンの船形が大きく見えてきた。レーティング的に追いついて当たり前なのだ。この日は諸磯ヨットクラブも南西沖周りのレースがあるので、どれが湘南レースの先行艇かわからなくなる。そろそろ南西沖ブイが見えてきてもいいはずだ。城ヶ島寄りに上らせて走らせていた Hanamizuki がジャイブして返してきた。広がっていたレース艇が回航マークに集結する。果たしてコース引きはどの艇が正解だったのか答え合わせの中間試験だ。

南西沖ブイを確認。このままでは真ランで一発では入れない。2ジャイブか2回目のジャイブ前にスピンを降ろしてジブでジャイブするか？ビビリのカートはもちろん2回目のジャイブ前にスピンドウンを選択。なのでマークぎりぎり近くまでアプローチできるように最初のジャイブポイントを伸ばす。ここだという所でジャイブするとブイを回った Hanamizuki とすれ違う。手を振るとヘルムを取っていたオーナーの T さんまでが手を振りかえしてきた。初の湘南レース楽しんでいるようだ。南西沖ブイに近づいてきた。50m 手前でスピンドウンの準備をすると YO さんが「まだ早いよ。もっとギリギリまで」と言うがいつもいる YA さんがいないので無理せず余裕を持ってスピンドウン。ポールを降ろしてジブでジャイブ、あとはクローズに上るだけ！・・・のはずだったが、返したジブのシートがない？！解けちゃった？！幸い風が弱かったのですぐに結ぶもリーダーに通していなかったりと、余裕を持って回ったはずなのに大チョンボ！！やっとクローズでまともに走りはじめた頃にはバーバリアンは遙

か前方に。せつかく差を詰めたのに・・・このままバーバリアンの後を追いかけて城ヶ島方向に向かっても勝てない。となればギャンブルしかない。タックです！！バーバリアンが右に行けば我々は左。どうせ今、レーティングでドベだから失う物はない。男の一本沖出し勝負！風はこの頃から上がってきて5mからブローで7mくらい。雨で濡れた身体が風にさらされて寒さが身にしみる我慢比べレースとなった。通常どこかで岸に寄せようという気になるが、今回はまったく寄せない。1タックで入れるコースしか考えない。艇はメインとヘルムの2人が走らせて、ハイクアウト組のカトーと71歳YOさんの2人は「ヨットってマズのスポーツだよな」とどうでもいいことをずーっと話し合う。話していないと寒いからだ。

亀城を越えられる地点でやっとなタック。果たして男の一本沖出しコースは正解だったのか？？岸に寄せるにつれレース艇のセールが見えてくる。大きな艇ばかり。後ろにはセールは見えない。定置網に近づくと本部船が見えてきた。そしてすでにフィニッシュしてホームポートに帰る艇も。必死にバーバリアンを探すが見つからない。もしかして帰って行く艇団の中かも……。そうこうするうちに風はだんだんと弱まりタイムリミットが気にかかる。風の振れでタックしながらなんとかタイムリミット内にフィニッシュ。そして本部船に「バーバリアンに入った？」と聞くと「まだです」おおおおおお～抜いた～～！！あとは今何処に？レーティング的にどのくらい離しているのか？自分の中の悪魔が囁く「バーバリアン、タイムリミットにひっかかれ」あああ自分はなんて卑しい人間だろう。人の不幸やミスを願うなんて…いかんいかんいかんヨットは紳士のスポーツだ。俺の所だけ風吹けとか、タイムリミットにひっかかれなど言語道断。でも今回だけは許して…。フィニッシュ後機走でシーボニアに向かっていると定置網周辺に小型レース艇の一団が。どうも先頭がバーバリアンのようだ。みんな一生懸命走らせてフィニッシュしようとしている。でも、タイムリミットにひっかかれ！風おちろ～！と念を送ってその場を去る。

シーボニアに着いて片付けていると風太郎が帰ってきて「タイムリミットにひかかった」と。と言うことは？さらに風の噂でNクラスAグループ「フィニッシュしたのはフォルタレーザだけ」と耳に入ってきた。ウソみたいな展開。行きはドベだったのに、帰り男の一本で大逆転！！これは運以外のなにものでも

ない。年間総合も一気にバーバリアンを逆転し 5 ポイントのリードに。あきらめちゃ行かん。12月4位以内なら初の年間優勝も夢じゃなくなりました。

タイムリミットにひっかかった皆さんごめんなさい。

でも浮かれている・カトー